

## NAATI認定更新制度の概要およびその課題

小柴 健太

(モナシュ大学)

*In an effort to maintain a high standard of competence among the practitioners in the translation and interpreting profession, NAATI (National Accreditation Authority for Translators and Interpreters) implemented a new system of revalidation of accreditation starting on January 1<sup>st</sup> 2007. Under this system, individuals that gained NAATI Accreditation after January 1<sup>st</sup> 2007 will need to revalidate their accreditation every three years. Although this new system has been implemented, the first round of revalidation will not start until 2010. Therefore, the consequence of this system is still unknown. This paper provides an overview of the new revalidation system and examines the issues involved.*

## 1. はじめに

オーストラリアは翻訳者・通訳者の認定制度を確立している数少ない国の1つであり、その認定を行っているのがNAATI（全国翻訳者通訳者認定機関）である。オーストラリアでプロの翻訳者・通訳者として働く場合、NAATIの認定を取得することが重要な第一歩であり、政府関係の仕事をするためには必須と言ってもよい。この国家資格は、翻訳と通訳それぞれ4つのレベルに分かれている<sup>1)</sup>。レベルが上がるにつれて専門性が高くなり、より高度な技能が求められる。また、翻訳の認定には言語方向が定められているため、例えば英語から日本語に和訳する認定を取得した場合、その言語方向のみの認定となる。認定を取得するには、(1) NAATIの認定試験に合格する、(2) NAATI認定の大学コースなどを修了する<sup>2)</sup>、(3) 海外で取得した翻訳通訳の専門資格をNAATIに認定してもらい、以上3つの方法がある。

NAATIは、このような認定制度を通し、翻訳者・通訳者のレベルを向上させることで、オーストラリアにおける翻訳者・通訳者の社会的地位の向上に貢献してきた。しかし、レベルの底上げにはある程度成功してきたものの、そのレベルをどのように維持していくかという課題が残っていた。そこでNAATIは、認定を取得した翻訳者・通訳者の質を維持していくため、2007年1月1日より認定更新制度を導入した。今までNAATI認定は、一度取得してしまえば無期限に有効であった。しかし、この新しい制度のもとでは、2007年1月1日以降行われたテストの結果取得された認定は3年間のみ有効となり、通訳者・翻訳者は3年おきに認定の更新をする必要がある。詳細はNAATIの更新制度に関するホームページで確認できる (NAATI, 2007b)。

更新には、2つの基準を満たさなければならない。第1にNAATIが設定した継続的実務活動の基準を満たすこと、第2にNAATIが設定した専門技能開発活動の基準を満たすことである。翻訳者・通訳者は、両方の基準を満たした上で、その記録とともにNAATIに更新を申請しなくてはならない。更新されれば、認定はさらに3年間有効になる。しかし、この更新制度は導入されて間もないため、認知度は低く、その問題点に関する十分な検討がされていない。したがって、本稿では、この新しい制度について述べるとともに、予想される問題点等を考察する。

## 2. 更新制度の背景と目的

### 2.1 背景

NAATIの更新制度導入の背景にはオーストラリア特有の翻訳通訳事情がある。オーストラリアは移民を多く受け入れている多文化国家であるため、国民の話す言葉も多様である。しかし、全ての人が英語を話せるわけではなく、医療、教育、福祉、司法など、日常生活の様々な局面で翻訳・通訳が必要となる。したがって、このようなコミュニティー分野での翻訳・通訳の需要が高く、同分野での業務が翻訳者・通訳者にとって仕事の大きな割合を占めることになる(Phelan, 2008)。この分野の仕事は、病院での診察時の通訳や戸籍の翻訳といった業務にかかる時間が比較的短いものが多い。そのため、オーストラリアにおける翻訳通訳業は、パートタイムが主流であり、社内通訳などのフルタイム・ポジションが少ない。さらに、報酬が低く、転職率も高く、入れ替わりが激しいという特徴がある。認定を取得しても数年で転職したり、数年のブランクの後に復帰したりと、継続的に仕事しないケースも多い。また、活動していても不定期であったり、仕事量が少なかったりということもめずらしくないため、認定後の活動量にばらつきが見られるのである(NAATI, 2005)。

このばらつきが問題となるのは、実務活動を続けている人と、続けていない人の間に、技能的に大きな差が生じるからである。さらに、従来の認定のみの制度ではその両者の見分けがつかず、認定と翻訳者・通訳者の質が必ずしも一致しない場合がある。その結果、NAATI認定が翻訳者・通訳者の能力と信頼性のベンチマークとして機能を失くなる危険性がでてくるのである。認定更新制度は、このような事情を背景に導入された。

### 2.2 目的

以上のような背景から生まれた更新制度の主な目的は、能力のばらつきを整理し、翻訳者・通訳者に自らの技能を常にメンテナンスしアップデートすることを促すところにある。また、このような更新制度が専門技能の維持に不可欠であることは、様々な分野で証明されており、教師や医師などすでに免許や認定の更新制度を導入している専門職は多い。そしてその多くが更新にあたり、継続的な実務活動や専門技能開発活動などを要件としている。NAATIの認定更新制度の導入には、他の専門職と足並みをそろえ、翻訳通訳の専門性を世間に示す目的もある。

さらに翻訳者・通訳者が技能のメンテナンスに努めていることの対外的なアピールは、エンドユーザーによる認定の価値の再評価にも繋がる。また、更新制度の一部として、専門技能開発活動への参加を義務化し、職業倫理などを再教育することで、エンドユーザーからの信頼の強化が可能である。

## 2.3 Paraprofessionalと更新制度

Paraprofessionalとは、NAATIの資格認定の中でも初級にあたるもので、専門性の低い翻訳通訳が可能なレベルである。オーストラリアにおいて翻訳通訳をする場合、Professionalレベルを要求されることが多いため、プロの翻訳者・通訳者として活動を続けていくにはProfessionalレベルの認定にステップアップすることが推奨されている。

更新制度導入には、ParaprofessionalをProfessionalのレベルまで引き上げるモチベーションを与えるという目的もある。この新制度では、Paraprofessionalレベルの翻訳者・通訳者は更新期間2回分（6年間）の間に、Professionalレベルの認定を取得しなくてはならない。もしこの期間中に認定を取得できない場合、すでに持っているParaprofessional認定は無効になってしまい、もう一度Paraprofessional認定を取得し直さなくてはならない。このように促すことで、業界全体のレベルの底上げを図ると同時に、認定の整理をする狙いがある。

## 3. 更新の要件と申請

### 3.1 実務活動

前述のとおり、更新をするための要件の1つは、NAATIの定める継続的実務活動の基準を満たすことである。翻訳と通訳では基準が異なる。翻訳の場合は、3年間で30,000ワードの実務活動が必要である。つまり1年間で10,000ワード、1週間あたりおよそ200ワードという計算になる。複数の認定を取得している翻訳者は、自らが持っているすべての認定でこの基準を満たさなくてはならない。例えば日英・英日翻訳両方の認定を有する場合、それぞれの方向で30,000ワードの実務活動が必要となる。

通訳の場合は、3年間で120件の実務活動が必要とされる。1年間平均40件、つまり、1週間およそ1件の仕事をこなせば問題ないという計算である。なお、通訳の仕事は、1時間以下であれ1日であれ、すべて1件とみなされる。更新の基準は、認定のレベルに関係なく同じである。

これらの数字は、大半の翻訳者・通訳者にとって実現可能であり、なおかつ技術を維持するのに最低限必要だとNAATIが考える実務活動量である<sup>3)</sup>。

### 3.2 専門技能開発

2つ目の要件は、専門技能開発活動の基準を満たすことである。翻訳者も通訳者も同じ基準を満たさなければならない。専門技能開発活動とは、翻訳者・通訳者が言語能力や職業倫理の知識などをアップデートするための様々な活動のことを指す。論文の発表、技能開発ワークショップへの参加、翻訳通訳に関するセミナーへの出席などがこれに該当する。

専門技能開発活動の基準は点数制になっており、活動にはそれぞれ点数がついている。基準を満たすには、3年間で120点を取得する必要がある。また、活動は、(1) Ethics (2) Maintenance of Language (3) T&I Skills Development (4) Complementary Skills Development (5) Contribution to the Professionの5つのカテゴリーに分かれている。(1), (2), (3)に関しては、3年間でそれぞれ30点以上取得することが必須である。なお、活動の点数及び該当するカテゴリーはNAATIのホームページで確認できる。参考に例を挙げると、自分が認定を取得している言語が話されている国で2週間以上過ごせば(1) maintenance of languageのカテゴリーで10点、NAATIのニュースレターに記事が掲載されれば(5) contribution to the professionのカテゴリーで10点という具合である。

わかりやすくすると、3年間で約12回、あるいは1年間で4回の専門技能開発活動に参加をしなければならないという計算になる。また、1年に1度は倫理に関係する活動をしなくてはならない。なお、複数の言語の認定を持っている場合でも、上記の活動によって120点を獲得していれば、全ての言語に対して要件を満たしたことになる。

このような専門技能開発の重要性に関しては以前から指摘されており、すでに複数のサービス・プロバイダーが独自の専門技能開発活動を翻訳者・通訳者に義務付けている(NAATI, 2006)。これらへの参加は、一般的に無給だが、それに代わるインセンティブとして、翻訳者・通訳者リストへの登録継続、優先的な仕事の分配などの配慮がされている。このような独自の専門技能開発活動も、申請することで更新基準にあてることが可能である<sup>4)</sup>。

### 3.3 更新の申請

更新に必要な記録用のログはNAATIのホームページからダウンロード可能である<sup>5)</sup>。更新制度が適応される翻訳者・通訳者は、前述の2点を自らログに記録し、認定有効期間満了日の1ヶ月前までに更新の申請をしなくてはならない。万が一、基準を満たせない場合には認定が無効になり、再度試験を受けるなどの方法でもう一度認定を取得しなくてはならない。

更新の費用は150豪ドルである<sup>6)</sup>。認定が無事更新されれば、翻訳者用スタンプおよび通訳者用IDカードのいずれかを貰うことができる。更新制度の導入にあたって、認定の期限がこれらに明記されるようになり、雇用者が、継続的な実務活動の有無を確認できるようになった。

## 4. 予測される問題点

### 4.1 新基準としての期間付認定

以上が更新制度の概要である。この更新制度の導入によって、継続的な実務活動と専門技能開発活動を通しオーストラリアにおける翻訳者・通訳者の能力面・倫理面を強化することで、業界全体のレベルのさらなる底上げが可能となったとされている。しかしながら、それが実際対外的にどのような効果があるのかはまだわかっていない。

そこで問題となるのが、果たして期限付認定がオーストラリア翻訳通訳業界の新基準になりえるかという点である。新基準になるということは、つまり、期間付認定が、エンドユーザーに対する技能の継続的なメンテナンスおよびアップデートの証明として機能し、無期限認定よりも好ましいという評価が一般的になるということである。そして、その結果、期限付認定を持っている翻訳者・通訳者にとって、仕事量・収入が増えるなどのメリットがあり、エンドユーザーにとっても安心して仕事を任せられるというメリットが生まれるということである。したがって、使う側、使われる側の両方にメリットがある環境が整って初めて期限付き認定が新基準になったと言えるだろう。

では、新基準になるためには何が必要だろうか。今後、期限付き認定を翻訳者・通訳者の能力の新基準としていくなれば、まずは期限付認定とそのメリットが広く認知されなければならない。そのためには、より多くの翻訳者・通訳者がこの制度に加入していることが望ましい。なぜなら、期限付認定を持っている翻訳者・通訳者が少数派である場合、エンドユーザーやサービス・プロバイダーの選択肢が狭くなってしまふからである。そして、この点こそが新基準になるための鍵となるのである。

#### 4.2 過去の認定取得者の自主加入に関する問題

さて、多くの翻訳者・通訳者の加入が望ましいとはいえ、更新制度が2007年に導入されたばかりなため、現段階では更新制度に加入している認定取得者よりも、加入していない認定取得者のほうが圧倒的に多い。ここで課題となるのが、2007年1月1日以前に認定を取得した人たちをいかに多く更新制度に加入するように促せるかという点である。2007年1月1日以前は、更新制度が導入されていなかったため、それ以前に認定を取得した人に対してはこの制度はもちろん強制されず、自主的に加入するか否かの選択肢が与えられている。加入した場合、以後認定は期限付きになり、更新制度から抜けることはできなくなる。

しかし、無期限の認定を現在持っている翻訳者・通訳者を、更新制度に自主的に加入させるのは困難であろう。なぜなら、現段階では自主加入へのインセンティブが弱いからである。今のところ加入のデメリットは明確であるが、仕事量・収入が増えるといったような実際的なメリットは少ないと言える。例えば、更新制度への加入は、実務活動を記録したり、専門技能開発活動に参加したりと、時間的・事務的な負担が増えるといったようなデメリットがある。また、すでに固定したクライアントを持ち、安定した仕事量を確保できる翻訳者・通訳者は自主加入の必要性を感じないだろう。さらに、更新制度がエンドユーザーにまだ十分に浸透していず、この先どのように受け入れられるかも定かではない以上、自主加入をためらうのも無理は無い。

したがって、期間付認定を新基準にするためには、更新制度に自主加入するための十分なインセンティブが必要である。これには、第1にエンドユーザーの協力、そして第2にサービス・プロバイダーの協力が不可欠と考えられる。

エンドユーザーとは、サービスを利用する側、つまり翻訳者・通訳者を雇用する政府、団体、機関、企業、個人などのことである。自主加入者数を増やすためには、このようなエンドユーザーの協力がまず必要であろう。具体的には、エンドユーザーが期限付認定を持っている翻訳者・通訳者を優先的に使用していくことである。更新制度に加入していることで仕事が増え、収入が上がるのであれば、加入するメリットがある。また、逆に言えば、加入していなければ仕事を得られず、収入が下がるのであれば、加入するインセンティブとなりうるだろう。このような優先的な仕事の依頼は、NAATI認定がすでに重要視されている政府関係やコミュニティー分野では、実現が可能であると考えられる。しかしながら、ビジネスの分野におけるNAATI認定の認知度はいまだに低く、認定自体がさほど重視されていないとの意見もあり (Poole, 2006)、優先的な雇用は困難であるといえる。さらに、多くの企業が翻訳者・通訳者を選ぶ際に、コストや過去の信頼関係などを重視する傾向にあるため、期限付き認定を優先していくとは考えにくい。

次に重要となるのがサービス・プロバイダーの協力である。サービス・プロバイダーとは、翻訳・通訳を提供する側である。翻訳通訳エージェントなどがこれにあたる。オーストラリアにおける翻訳者・通訳者の大半がフリーランスなため、コンスタントにクライアントを得るためには、エージェントに登録することとなる。そこで、サービス・プロバイダーが更新制度に加入している翻訳者・通訳者に優先的にクライアントを回し、さらに、加入を登録や登録継続の必須条件とすれば、十分なインセンティブとなるだろう。現に、独自の専門技能開発活動に定期的に参加することを登録の条件としているエージェントもあるため、実現の見込みはある。しかし、その結果、翻訳者・通訳者の登録数を大幅に削減することとなるのであれば、サービス・プロバイダーもこのような方針には消極的な

らざるをえない。したがって、期間付認定を新基準にするためには、エンドユーザーおよびサービス・プロバイダーの協力が不可欠であることは明確であるが、協力を得られるか否かはまた別問題である。

#### 4.3 データ管理に関わる問題

さて、もう1つ大きな問題となるのが、データ管理であろう。この更新制度の導入によって、NAATIは、大量の情報を管理することになった。NAATI認定はすでに約20000人が取得しており(WAITI, 2006)、2006年・2007年の報告を見ると、その年だけで2036名が新たに取得している (NAATI, 2007a)。2007年1月1日以降に認定を受けた人の期間満了日だけでなく、自主加入者の期間満了日を記録し、満了日が近づいていること告げる通知を送り、そして更新の申請を処理していくのは、費用・データ管理の面で大きな負担である。さらに、この先の認定はすべて更新が義務づけられていることを考えると、負担は大きくなる一方である。

さらに、独自に行われている専門技能活動が更新基準にあてられるか否かを、公正に審査していく必要もある。また、専門技能活動の数が少なく、アクセスが困難な、遠隔地や海外に住んでいる通訳者・翻訳者に対する配慮をどうするかなど、運営・管理の面でも負担は大きい。そのため、このような運営・事務処理の面をいかに円滑に進めていくかが今後は問われることとなる。この面でのシステムの確立が急がれる。

#### 5. おわりに

以上、認定更新制度の概要と課題について述べてきた。認定更新制度は2007年1月1日に導入されたが、認定の期間が3年のため、導入後第一世代の認定取得者の期限満了日がくるのは2010年ということになる。よって、どのような結果になるかはいまだ不明であり、業界全体にどういった影響があるのか、まだ十分な研究・考察がされていないのが現状である。例えば、エンドユーザー、サービス・プロバイダー、そして通訳者・翻訳者の意見や、更新基準の妥当性、資金源としての側面など、研究の余地が残されている。今後の研究の方向性としては、認定を持っているプロの通訳者・翻訳者を対象とした更新制度に関するアンケート調査を計画している。一番影響を受けることとなる通訳者・翻訳者の意見を聞くことで、更新制度の妥当性や新基準としての可能性をさらに検討していきたいと考えている。

上述のとおりオーストラリアは、認定制度や通訳・翻訳に関するシステムが非常に発達した国である。本稿でみてきた認定制度の限界や、更新制度の有効性などに関する問題点からは、日本も学ぶべきことは多いのではないだろうか。今後、このような通訳者・翻訳者のレベルを確保するためのシステムについての研究がさらに発展していくことを望む。

---

著者紹介：小柴健太 (KOSHIBA Kenta) モナシュ大学人文社会科学部通訳翻訳研究修士課程在籍中。  
連絡先：kkos6@student.monash.edu.au

---

## 【註】

- 1) 翻訳の場合、Paraprofessional Translator, Professional Translator, Advanced Translator, Advanced Translator (senior)の4つに分かれている。通訳の場合、Paraprofessional Interpreter, Professional Interpreter, Conference Interpreter, Conference Interpreter (senior)の4つに分かれている。
- 2) ただし、NAATI認定と結びついた試験で、決められた基準以上の成績をおさめる必要がある（通常は70%）。すなわち、学位は取得できても、NAATIの資格は取得できないという場合も多々ある。
- 3) 継続的実務活動の基準は2010年の終わりまでに見直される予定。
- 4) 専門技能開発活動のリストは2008年と2009年に見直され、今後記載される活動の数は増える予定。
- 5) NAATI Revalidation of Accreditation Work Practice Log Sheet for Interpreters. [Online]  
<http://www.naati.com.au/pdf/revalidation/Work%20Practice%20Logsheet%20for%20Interpreters.doc> (retrieved Aug., 29, 2008)  
 NAATI Revalidation of Accreditation Work Practice Log Sheet for Translators. [Online]  
<http://www.naati.com.au/pdf/revalidation/Work%20Practice%20Logsheet%20for%20Translators.doc> (retrieved Aug., 29, 2008)  
 Professional Development Log Sheet [Online] [http://www.naati.com.au/pdf/misc/NAATI\\_PD\\_logbook.doc](http://www.naati.com.au/pdf/misc/NAATI_PD_logbook.doc)  
 (retrieved Aug., 29, 2008)
- 6) 2007年から2008年の費用。他のNAATI 諸費用と同じく、更新費用も毎年見直される。

## 【参考文献】

- NAATI. (2005). NAATI revalidation of accreditation second discussion paper. [Online]  
<http://www.naati.com.au/pdf/news/Revalidation%20Second%20Discussion%20Paper%20September%202005.pdf>  
 (retrieved Aug., 30, 2008)
- NAATI. (2006). NAATI revalidation of accreditation forum for service providers record of meeting. [Online]  
[http://naati.com.au/pdf/misc/Service\\_Provider\\_Forum\\_Record\\_of\\_Meeting\\_8\\_Sept\\_06.pdf](http://naati.com.au/pdf/misc/Service_Provider_Forum_Record_of_Meeting_8_Sept_06.pdf) (retrieved Aug., 29, 2008)
- NAATI. (2007a). NAATI annual report 2006 – 2007. [Online]  
<http://www.naati.com.au/pdf/annual-reports/Annual%20Report%202006-07.pdf> (retrieved Aug., 30, 2008)
- NAATI. (2007b)., Revalidation: Keeping a professional edge. [Online]  
<http://www.naati.com.au/pdf/misc/Revalidation%20-%20Keeping%20the%20Professional%20Edge-August08.pdf>  
 (retrieved Aug., 27, 2008)
- Phelan, M. (2001). *The interpreter's resource*. Clevedon: Multilingual Matters.
- Poole, C.(2006). From the president – Chris Poole on AUSIT and the NAATI revalidation ‘proposal’. *AUSIT National Newsletter*, 14(1), 3-7. [Online] <http://www.ausit.org/pics/nfFeb06.pdf> (retrieved Aug., 27, 2008)
- WAITI. (2006). NAATI revalidation proposal. *WAITI Newsletter*, 1, 6-8. [Online]  
[http://www.waiti.org.au/files/NEWS\\_FEB\\_2006.pdf](http://www.waiti.org.au/files/NEWS_FEB_2006.pdf) (retrieved Aug., 28, 2008)

